

2014 年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	国際交流センター
評価基準 4	教育内容・方法・成果
中項目 4-3	教育方法
点検・評価項目(1)	4-3-1 教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用
	学生の主体的参加を促す授業方法
点検・評価項目(2)	4-3-2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容の充実
	授業内容・方法とシラバスとの整合性
点検・評価項目(3)	4-3-3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示）
	単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性
点検・評価項目(4)	4-3-4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施
	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 点検・評価

【点検・評価項目ごとの現状説明】

4-3-1	- 授業内容に適した授業形態が採られており、留学生科目は大半が少人数教育である。 - 学生の主体的参加を促す授業や自主的な学修を促す授業は、個々の教員が熱意をもって取り組んでいる例はあるが、国際交流センターの教員組織において共有されていない。
4-3-2	- 新シラバス作成にあたっては、教員によって精粗が生じないよう、記入上の留意事項等を明示して周知を図った。また、国際交流センターにシラバス記載状況のチェック体制を整えた。 - シラバスに授業の到達目標・授業外の学習・参考文献等を記載し、それに沿って学習指導を行うことになっているが、学習指導、授業方法、そして使用テキストなどは授業担当教員に任されている。
4-3-3	成績評価の方法と基準は、シラバスに評価する項目・評価基準・評価の割合を記入するようしており、外国人留学生学生に周知を図っている。単位認定は学則に定め、各学部の履修の手引き等に記載し適切に行っている。既修得単位の認定は学則に定め、適切に行っている。
4-3-4	- 学生による授業評価アンケートを毎年度実施しているが、全開講科目が対象ではない。その結果は各授業担当教員にフィードバックし、教員からのコメントを回収している。アンケート集計結果は FD 報告書としてまとめ、学内外に公表（全学データおよび報告は冊子として、また HP で学内外へ公開。個々の結果と教員コメントは学内公開）しているが、アンケート結果を具体的な授業改善に結びつける作業とその有効性の検証は、国際交流センターでは行っていない。 - 授業改善のための研究会は学内で開催されているが、国際交流センター独自で実施するようなアクションはない。 - 大学への満足度等について卒業生アンケートを実施し、分析結果を学内公表しているが、外国人留学生独自の調査は行われていない。 - 教育成果について、留学生本人だけでなく、所属する各学部学科からの留学生科目へのフィードバックが行われていない。 - FD 活動は成果を出すのに時間のかかる取り組みであるため、国際交流センターの専任教員が、一貫した方針のもとで進めていかなければ、それこそ形骸化した活動になる。 - 現在、国際交流センターで組織、責任主体、権限、手続きは明確化されていない。また、その検証プロセスもない。 - 毎年度実施する授業評価アンケート等で学生による評価を行い、その結果は各教員にフィードバックされている。しかし、他大学のような全科目に対する授業評価アンケートまで至っていない。授業評価の指摘が的確に授業で反映されていない現状もある。

【効果が上がっている事項】

4-3-1	- 年度当初、外国人留学生ガイダンスを実施している。 - 交流学生は、来日時、プレイスメントテストを実施している。
4-3-2	全学統一シラバスの下、記入上の留意事項を授業担当教員に周知し、また記載状況のチェックも行っている。
4-3-3	成績評価の方法と基準について、シラバスに評価項目・評価基準・評価の割合を明記したことによって、成績評価に関する曖昧さの解消が大きく進んだ。
4-3-4	外国人留学生卒業進路調査を毎年度実施している。一方、交流学生は、帰国時、詳細な生活・授業アンケートを実施している。

	・ 交流学生に対し、帰国時の年2回（夏・冬）、「交流学生日本語報告会」を独自に開催している。同報告会には、日本人チューター、東松山国際交流協会、高坂周辺地域の方々を呼んでいる。
--	--

【改善すべき事項】

4-3-1	・ 学部留学生については、各学部学科で行われている新入生ガイダンスとも連携する必要がある。 ・ 交流学生に対するガイダンスでも、各受け入れ学部学科などから、留学生科目以外の履修可能科目などの指導が必要。
4-3-2	・ 周知の徹底を図るためには、単にメディアの問題として捉えるよりも、全学の留学生を対象に学習・生活アンケートを実施して、留学生の生活などを把握したうえで、適切な方法を検討する。
4-3-3	・ 成績評価の方法と基準の設定は、各授業担当者に委ねられており、国際交流センターの共通基準の設定が課題である。
4-3-4	・ 学生による授業評価アンケート結果が、具体的な授業改善にどのように活かされているか、組織的な検証を進める。 ・ アンケートの分析結果に基づいて授業改善のための具体的な提言ができるよう、卒業生進路調査票における授業関連の設問を追加する。 ・ 学部留学生であれば、所属の各学部学科、交流学生であれば派遣先の大学からのフィードバックを得られる体制や仕組みを検討する必要がある。

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

シラバス記入例、学生による授業評価報告書（冊子版、CD-R 版）、FD 報告書、FD ニュース、学則第 5 章第 2 節～第 9 節（各学部の教育課程）（※各学部の点検・評価シートに記載）、学則第 19 条～19 条の 4（入学前の既修得単位の認定）、大学院学則第 8 条の 2（他大学の大学院における授業科目の履修等）、学部長会議議事録（卒業生アンケートについて）（2013.6.3）、各学部・研究科内 FD 委員会（または FD を担当する委員会）名簿、派遣留学生一覧、外国人留学生一覧、卒業生進路調査票 文部科学省 http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/

《指標データ》

データ集（表 1 1）学生の国別国際交流

（表 1 2）海外への派遣学生数

（表 1 3）国別留学生数（学部別）の経年変化

（表 1 4）教員・研究者の国際学術研究交流

（表 1 5）国際交流協定締結機関数・締結国数

Ⅲ【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの		評価				
				2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～ 2018)	4-3-2 ・シラバスの記載内容が外国人留学生に周知徹底されている。	・ 学生による授業評価アンケートにおいて、「シラバスの内容を理解しているか」への肯定的な回答が 80%を超えている。	→					
	4-3-3 ・公平性と客観性を担保した成績評価法として、国際交流センター評価基準を導入する。	・ 外国人留学生の到達指標がある。	→					
	4-3-4 ・専任教員を中心とする、国際交流センターFDを検討する。	・ 国際交流センターFDを組織化する。	→					
	4-3-4 ・卒業生進路調査票における授業関連の設問を追加する。	・ アンケートの分析結果に基づいて授業改善のための具体的な提言が行われ、授業改善に結びついている。	→					
	4-3-4 ・全学の留学生を対象に学習・生活アンケートを実施し、留学生受入れ政策の指針に役立てる。	・ 留学生に向け、学習・生活アンケートを実施する。	→					
14 年度 目標	4-3-1 ・留学生ガイダンスの見直し。	・ 国際交流センターの教員と連携し、見直しに着手する。	→	B				
	4-3-2 ・シラバス記載について教員間の精粗を解消するため、国際交流センターでチェックを継続して実施し、より一層の充実を図る。	・ シラバス項目の未記入件数を集計。	→	A				

国際交流センター

	4-3-2 ・シラバスの記載内容を学生に周知させるために、各教員が、初回授業時にシラバスを学生に配布し読み合わせをする、又はシラバスの内容を学生へ十分に説明する。	・学生による授業評価アンケートにおいて、「シラバスの内容を理解しているか」への肯定的な回答が前年度を上回っている。	→	C				
	4-3-3 ・国際交流センターの評価基準の設定を検討する。	・評価基準の設定に着手する。	→	C				
	4-3-4 ・国際交流センターFDを検討する。	・国際交流センターFDの検討に着手する。	→	C				
	4-3-4 ・授業評価アンケート結果が、具体的な授業改善にどのように活かされているか、組織的な検証を進める。	・左記の検証過程が国際交流センター管理委員会に報告されている。	→	C				
	4-3-4 ・全学の留学生を対象に学習・生活アンケート導入について検討を開始する。	・国際交流センター管理委員会に報告されている。		C				
	4-3-4 ・卒業生進路調査票における授業関連の設問を追加する。	・新しい質問項目によるアンケートが実施されている。	→	C				